

くすりのしおり

内服剤

2023年02月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ワントラム錠 100mg

主成分：トラマドール塩酸塩 (Tramadol hydrochloride)

剤形：白色～灰白色の円形の錠剤、直径 9.7mm、厚さ 5.2mm

シート記載など：ワントラム錠 100mg、134、徐放錠、100、Onetram Tab. 100mg、か
まずに飲んでください



この薬の作用と効果について

オピオイド受容体への結合、モノアミン再取り込み阻害作用により強い痛みを抑える働きがあります。通常、非オピオイド鎮痛剤で治療困難ながん疼痛、慢性疼痛の治療に用いられます。ただし、病気そのものを治すものではありません。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤または向精神薬による急性中毒である。治療により十分な管理がされていないかん、腎機能障害または肝機能障害がある。過去 2 週間以内に他の薬を使った。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（
：医療担当者記入）
- ・通常、成人は 1 回 1～3 錠（主成分として 100～300mg）を 1 日 1 回服用します。症状により適宜増減されますが、最高量は 1 日 4 錠（400mg）とします。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・できるだけ毎日同じ時間帯に服用してください。
- ・この薬は徐放性製剤なので、がん疼痛で痛みが突然強くなり臨時追加が必要な場合は、トラマドール塩酸塩即放性製剤を服用します。
- ・この薬は徐放性製剤なので、割ったり、砕いたり、かみ砕いたりせずにそのまま服用してください。
- ・飲み忘れた場合は気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、日付が変わった場合は、忘れた日の分は飲まずに 1 日分をとばしてください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。黒目が小さくなる、嘔吐、冷や汗、めまい、息切れ、心血管虚脱（冷や汗、血圧低下、顔面蒼白などのショック状態）、けいれん、呼吸回数が減る、呼吸停止などの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれたら、ただちに受診してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・吐き気、嘔吐、便秘などの症状があらわれることがあります。これらの対策として下剤や吐き気止めの薬を併用することがあります。
- ・眠気、めまい、意識消失が起こることがあります。また意識消失により自動車事故に至った例もありますので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作は避けてください。
- ・飲酒により薬の作用や副作用が強まることがありますので、服用中の飲酒はひかえてください。
- ・錠剤が便の中に白い固まりとして出てくる場合があります。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、便秘、吐き気、嘔吐、傾眠、浮動性めまい、口渇、食欲減退などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・呼吸困難、喘鳴（ヒューヒュー音）、眼や口唇のまわりのはれ [ショック、アナフィラキシー]
- ・呼吸が浅く速くなる、呼吸をしにくい、息苦しい [呼吸抑制]
- ・筋肉が発作的に収縮する [けいれん]
- ・服用を中止しようとしても止められない、不眠、不安 [依存性]
- ・意識がなくなる [意識消失]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。

・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。